

風味・脂質「格別」大型の養殖カンパチ “アカバナ”市場開拓へ

●みなと新聞 2014年4月8日



幻の魚と言われるアカバナ

「アカバナ」市場開拓へ

風味・脂質「格別」 大型の養殖カンパチ

アロシヤン

【大阪】幻の魚「アカバナ」を販売する養殖カンパチの「アロシヤン」(大阪府、白河漁業株式会社)は、アカバナの市場開拓に乗り出す。1尾おおよそ8〜10kg以上育った大型のカンパチで、同社のサブリメントを育てた生魚を冷凍する。既得の力のりがよいため塩焼き

る魚になる(同)。同

社は消費拡大のチャンスと捉え、「アカバナ」を産地に日本の養殖業を活性化させた(同)。

「アカバナ」と「アロシヤン」を育てる。魚の成長が速く、短期間で大きくなるという。日本食品分析センターによると、「アカバナ」と「アロシヤン」の筋肉の脂肪は12・9%、「アロシヤン」の筋肉の脂肪は8・5%。一般の養殖カンパチの4・2%を大きく上回る。栄養成分やアミノ酸などのうまみ成分も増えた。アロシヤンの中でも格段に増えるが、「アロシヤン」を育てれば一層効果が高まることを確認した。

長崎・五島で育ったアカバナに出会ったのは「アロシヤン」の社長。アカバナは鹿児島県串木町の小浜水産が養殖し、輸出もしている。